

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600092		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 島		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町中島287-1		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600092-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居していただいたことに感謝し、全職員が利用者様のそばで寄り添い見守りながら丁寧な支援に努めている。自然豊かな場所で、9人の利用者様がいつまでもその人らしく生きられるように、「思い」を尊重し、家庭的な雰囲気の中で心身共に安心して心地よく過ごしていただけるよう支援に努めている。特に生活歴や性格、習慣を継続できることを大切にしている。終末期になられた方も、主治医・看護師・ご家族様と連携をして最期までその方らしく安楽に生活していただけるよう取組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、池田山を真近に臨み、窓からは、桜や白モクレンの大木が季節の移り替わりを楽しませている。庭やホーム内は、季節の花々と絵画であふれている。職員は、「いつでも利用者が主役」を合言葉に、手や口を出しすぎず、穏やかな笑顔で見守っている。起床時間や食事の時間・場所、レクリエーションへの参加など、その日の暮らし方を利用者が自分で選び、花の手入れや手芸など、好きな事を楽しみながら自由に行動している利用者の表情は、明るい。事業所は、24時間の医療サポートがあり、看取りの体制も整えている。職員は、利用者が安心して最期までその人らしく暮らし続けられるように、真心をこめて支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をいつも確認できるよう職員が各自名札の裏に記入している。また、研修や全体会議で理念の確認や意見交換を行い、職員の意識を高めている。	理念は、「利用者の権利の尊重」を含め、5項目を掲げている。職員は、名札の裏にも記載し、毎月の全体会議の中で共有している。地域との関わりを大切に、利用者の自己決定を尊重した暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の奉仕活動や公民館活動の参加、また学生ボランティアや中学生の体験授業を受入れたりする等利用者様が地域とつながった暮らしが続けられるよう交流を図っている。	事業所は、自治会員として、地域の清掃活動や防災訓練など、諸行事に参加している。中学生の職場体験学習の受け入れや、ボランティアも訪れている。近隣住民からの野菜の差し入れや、福祉相談に対応するなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について研修を行い、職員全体の理解の向上に努めている。また、中学生に認知症について話す機会をもったり、地域の方に介護相談をいつも受け付けている事をお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度高齢福祉課の職員、区長、民生委員に参加していただき、活動報告や研修内容等を伝えている。また、地域、行政の報告もいただき、意見交換をし、サービス向上につなげている。	隔月ごとの運営推進会議には、家族代表や地域住民も参加している。事業所の行事や職員の研修状況などを報告し、意見交換をしている。認知症や看取りについての意見を話し合い、運営やサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の高齢福祉課の会議や研修に積極的に参加して連携をとっている。日頃から情報交換をし、ケアの向上に活かせるよう努めている。また、町主催の研修を担当しケアの取り組みを伝えている。	市の担当者が、事業所訪問時や、職員が直接に出かけて、運営状況や課題を報告し、意見交換をしている。行政が主催する研修やケア会議にも出席し、新しい情報を得るなどして、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を職員全体研修や会議にて行い理解を深めている。言葉や心の拘束を含め身体拘束ゼロを実践している。施設内も施錠をせずに自由に移動できるようにしている。	拘束に関する研修で、具体的な事例を出し合っており、身体拘束・精神的な拘束についての正しい知識を学んでいる。日常の声かけや見守りが拘束になっていないかを常に話し合い、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を行い理解を深めている。管理者は職員の精神面にも気をつけて、職員がストレスをためないよう環境作りに努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人ひとりが外部の研修に積極的に参加し学んでいる。また、管理者、ケアマネジャーが中心になり家族の相談に応じ活動している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様の不安や疑問等を聞き、十分な説明を行うように時間をかけ行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が気軽に意見要望を伝えられるよう面会時の環境作りに努めている。担当者会議の前には家族様からの要望書を職員全体が理解できるようにし、職員全体で家族様の意見要望に耳を傾けている。	家族からは、訪問時や介護計画作成時、3か月ごと発信の「近況報告」で意見を聴く機会を設けている。利用者の意見や要望は、日々の暮らしの中で把握している。部屋で食事がしたい、早く起床したいなどの希望を受け入れ、運営に反映させている。	散歩などの外出支援が、適切に支援しているにも関わらず、一部の家族に伝わっていないこともある。家族に、利用者の外出等の生活が伝わる情報提供の方法を工夫されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者会議を行い、各施設の意見交換を行っている。また、管理者会議にて決まった事等を全体会議にて報告し、職員の意見交換や相談、提案等を管理者会議に報告している。	施設長・管理者が出席する全体会議では、全職員が意見・要望書を提出している。福祉用具の導入や勤務時間などの要望が運営に反映されている。管理者は、職員個々の特技を活かした職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や性格、勤務時間の希望を考えている。また、やりがいのあるポジションを考え、働きやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が向上心を持って積極的に研修を受けている。また職員全体が知識を高められるよう4施設合同の全体研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員に外部の研修や勉強会・会議・交流会に積極的に参加してもらい、同業者との意見交換や質の向上につなげている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会を行い、現在の困りごとや心身状態等を事前に把握し、ご本人様・家族様が安心して生活ができるように努めている。情報を大切にし、スムーズに支援が始められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にゆっくりお話を聞き、家族様の不安や悩み、要望等を伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の心配事や不安、今後の事等を十分に話し合い、必要な支援を確認し、他のサービスが必要な時は内容を説明し紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩から学ぶ大切さを感謝し、利用者様一人ひとりに役割を持って生活していただけるよう支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず担当職員が近況報告をお伝えしている。また、郵送の書類には施設の様子がわかるよう写真や行事報告を行っている。時には利用者様の思いを代弁してお伝えして協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容室や喫茶店、スーパー等に継続的に出かけ、馴染みの人との交流に努めている。また、年賀状を出したりと関係作りに努めている。	家族や親戚、友人が訪れ、馴染みの美容院や喫茶店に行っている。隣接する接骨院やグループホームの知人との交流もある。職員と共に買い物や図書館に出かけるなどして、馴染みの場所や人との出会いを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格、生活歴をよく把握して、気の合う方との関係が保てるよう席の配慮等をしている。またコミュニケーションが難しい方には職員が介入しながら良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス後もいつでも相談は受け付けている。必要に応じて訪問も行ったり、お手紙を添えた案内状をお送りして近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にはご本人様の声や家族様の声を記入し、要望の把握に努めている。また、生活の中での利用者様の声も大切にし、思いや意向を把握できるよう全体会議に報告している。	職員は、事前に利用者個々の生活歴を把握し、日々の暮らしの中で、個別に話し合う機会を設け、本人の思いを把握している。家族には(要望書)を送付し、意向や要望の把握に努め、個々の希望する暮らしが出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴を、ご本人様や家族様、主治医より情報をいただき、その方らしい生活が送れるようアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に行い、健康状態・食事・排泄・睡眠等介護記録とは別に作成し、職員全体が利用者様の変化に気づけるよう記録、把握できるよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には必ずご本人様、家族様の要望や意向を伺い、ケアプランの原案作成している。ケアプランは毎日介護記録簿に記載し、経過を記録している。	家族からの(要望書)や介護記録簿、職員や看護師の意見を参考に、原案を作成している。サービス担当者会議では、利用者・家族を交えて話し合い、個々の希望に沿った、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態、ご本人様からの声等を記録している。体調管理表や体重表等も作成し、職員全体が情報を共有できるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員がご本人様、家族様の状況やニーズに合わせて対応、サービスを提供している。柔道整復師によるリハビリや、クラブ活動も取り入れ、多様なサービスができるよう努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(スーパー・お寺・病院等)を考えて、それらを利用しながら生活できるよう支援している。地域の清掃活動にも利用者様と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医の希望を大切にしている。利用者様の日常の様子をかかりつけ医に文章にて報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に、希望するかかりつけ医が選択出来る事を、説明しているが、全員が協力医に変更している。協力医の月2回の往診と、週1回、看護師の訪問、歯科の往診もある。24時間医療連携を整えており、緊急時にも適切な医療を受ける事ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師、または定期的に訪れる訪問看護師に利用者様の日常の様子を伝えている。体調変化時には医師と連携し迅速に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	より適切な治療を受けられるよう入院時には介護サマリーを提供する。定期的なご面会により、家族様や担当看護師との情報交換に努め退院時には病院側とミーティングを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化した場合はどうするのかを、ご本人とご家族の希望をなるべく早い段階で確認している。終末期には主治医やご家族と密な連携をとり対応している。好みの食べ物や音楽を知り楽しみのある生活を工夫している。	事業所は、24時間医療連携体制を整えている。重度化した場合の終末期の過ごし方を早い段階から話し合い、関係者間で方針を共有している。医療機関と連携しながら、家族の協力の下、看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変または事故発生に備え、看護師の指示の元研修を行い、応急手当や初期対応に努める。ヒヤリハット報告を会議にて話し合い、事故発生の減少に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の立ち会いで防災訓練を行っている。避難時の必要対策・初期消火・救命訓練を学んだり、訓練用のビデオをみるなど意識を高められるように工夫している。	災害訓練は、消防署の協力の下、年2回実施している。夜間を想定した地震・火災の訓練では、初動訓練や誘導方法などを行なっている。食糧や必要物品なども確保している。28年度災害計画で、地域住民の協力を呼びかけている。	運営推進会議に、地域住民参加型の災害訓練計画を提案するなどの工夫で、地域住民の協力が得られた災害訓練の実現に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自室に入室の際、ノックや声掛けを徹底し、プライバシーの確保に努めている。また、プライバシーの確保や接遇の研修も行い、言葉掛けには特に気を付けている。	職員は、必要以上に手や口を出さず、せかせかせたりせず、利用者の自己決定を尊重し、待つ姿勢の支援を徹底している。本人の生活習慣やこだわりを受け入れ、自尊心を損ねない言葉遣いや対応に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や衣服の選択、レクや行事への参加希望など、日常生活で自己決定を促している。自己表現できない方は、様子を見ながら尊重したケアに取り組んでいる。また、外出希望には皆で話し合い希望に添えるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の暮らしに合わせて必要な支援をするよう努めている。ご本人の生活習慣を尊重した介護であるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分にあった洋服を選択していたき、整髪し、季節によっては帽子をかぶるなどその方らしいおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に野菜やフルーツの収穫をして味わうと共に会話を楽しんでいる。個々の体調や好みなどに合わせてに別メニューでの食事提供もしている。ホットプレートを使用し一緒に料理をするなど楽しめる工夫をしている。	職員は、旬の食材を取り入れ、利用者の好みを聴きながら調理をしている。利用者も下ごしらえや味見を手伝い、時々の希望で、時間や場所を替えて食事を楽しむ人もある。職員も同じ物を食べながら、昔話などして楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立にそって食事を提供を行っている。毎日のおやつタイムを通し水分補給にも努めている。個々に合わせた食事形態にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々に合った口腔ケアを行っている。義歯の方は夜にははずし、義歯の清潔を守っている。自力でできない方は職員により歯磨きケアを支援している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が個々の排泄パターンを観察し、それぞれの利用者様に合わせた排泄誘導を行っている。特に気分をそこねないプライバシーある支援に心がけている。	職員は、個々の状態に応じた支援で、ほぼ全員が、夜間も各居室に設置されているトイレでの排泄ができています。重度の利用者も、気持ちのよさが実感出来るように、こまめに対応し、自立の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便記録を参考に、食事や水分に気を付け、運動を促す等支援している。また、慢性的な便秘は主治医に相談し、薬を使用したり、センナ茶により改善している方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴によって清潔を保っている。個々に合わせた入浴によって、気持ち良く入っていただいている。また、寝たきりの方にはこまめに清拭をしている。	入浴の回数や順番などは、利用者の希望に合わせ、柔軟に対応している。重度の人、複数の職員で対応し、ゆったりと気持ちの良い入浴を支援している。職員の負担の軽減と安心・安全の為に、リフトの設置を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切に、自室で静かにお茶を飲まれる方、また、他の利用者様と一緒に楽しくお茶の時間を過ごす方等、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ等がないよう、職員によって食前食後の服薬確認を支援している。また、服薬後の症状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた仕事(洗濯たたみ・草取り・庭の手入れ等)をしていただいている。気分転換に散歩、買い物などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周囲を散歩したり、ご家族と一緒に気軽に買い物に出かけたり、外食をされたりと、自由な外出を支援している。	日常は、事業所周辺や庭を散歩している。その日の希望に沿って、買い物や喫茶店などにも出かけている。家族の協力で、外食や美容院に出かける人もある。季節の花見や紅葉見物は、年間行事として出かけている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方はご家族も含めた話し合いによりご自分で所持し外出時に使用している。また、管理不能な方は小口資金としてお預かりし、希望時に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時には電話をつないだり、お手紙の投函支援を行っている。12月には年賀状の作成行事があり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの空間に季節の花や飾りをして季節を感じてもらえるよう努めている。また、大きな窓からは池田山や揖斐川等の風景を楽しんでいただけるようガラスの清掃も心がけている。静かな空間を保てるよう努めている。	共用の間には、季節の花や絵画、お雛様を飾っている。室温や照明をほど良く管理し、随所にテーブルや椅子を配置している。利用者の書や絵、新聞や雑誌、台所から漏れる料理の匂いに生活感がある。窓越しに広がる景色を眺めながら、好きな場所でゆったりとくつろげる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれがお好きな場所でお好きに過ごせるようテーブルやソファをいくつか置いて配慮している。また、デッキにて風を感じて過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分のお気に入りの家具や置物等を持って来ていただき、好みの居室作りを支援している。また、ベッド・ソファ・タンス等は施設のものを自由に使用していただいている。	居室には、トイレ・洗面台を設置し、タンスやソファ等も用意されている。利用者は、馴染みの炬燵や鏡台、位牌などを持ち込み、使いやすく配置している。花や写真・自作の作品などを飾り、居心地良く過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は全てバリアフリーになっており、廊下・階段・浴室・トイレ等には手すりの設備により安全に移動できるよう配慮されている。エレベーターの設置により押し車の方の移動もスムーズにでき、安全自立が保てるよう工夫している。		